

地域魅力創造有識者会議 外国人材

— 最も過小評価されてきたリソースをどう活性化させるか？ —

2018年10月31日

(公財)日本国際交流センター

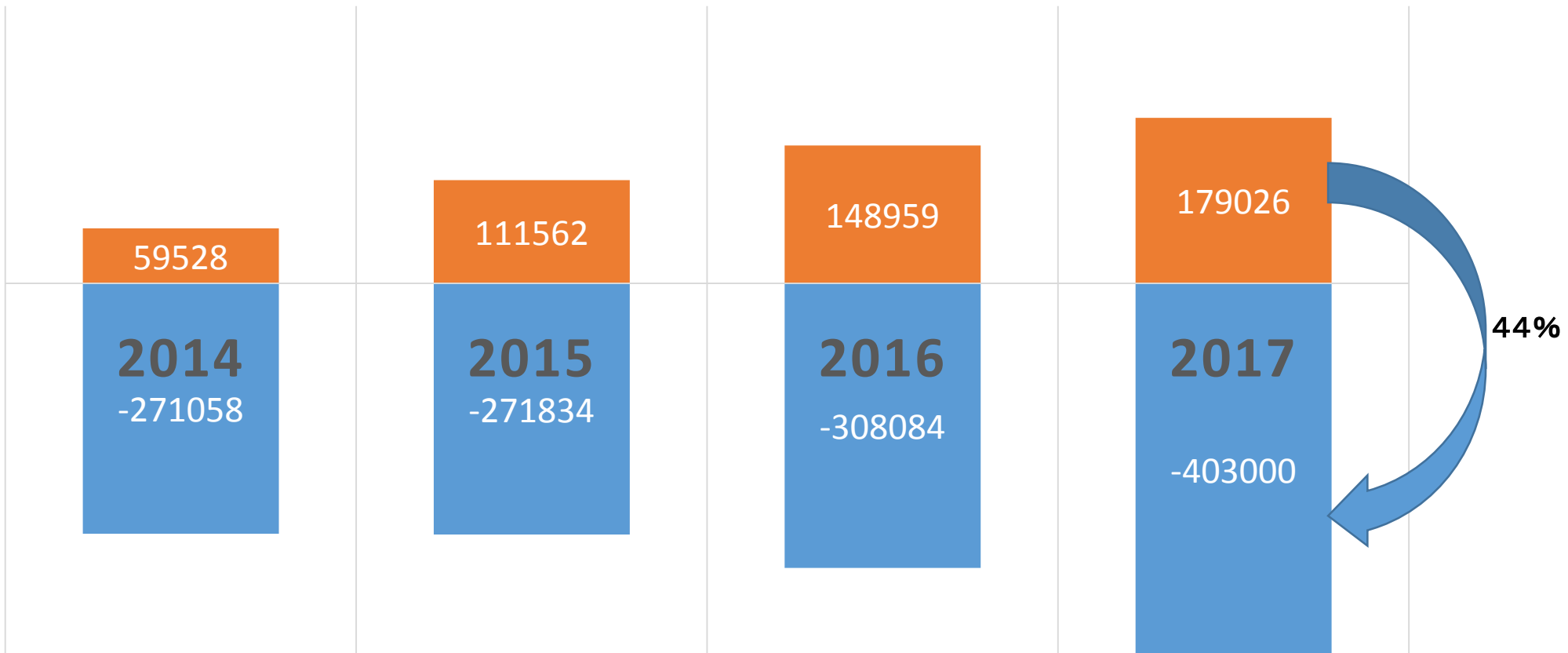
執行理事 毛受敏浩

内容

1. 急増する在住外国人
2. 日本に住む外国人はどう認識されてきたのか？
3. 外国人にフルに活躍してもらうために—課題と方法—

日本の総人口と外国人の増減

■ 日本の総人口 ■ 外国人



厚生労働省人口動態統計、法務省在留外国人数による

日本に住む外国人はどう認識されてきたのか？

- 外国人の在住者は例外的な存在として政府の政策の対象外
「中途半端な存在」「最も過小評価された存在」
- 地域社会では1990年代から「多文化共生」開始
外国人の生活面での支援として地域（自治体、NGO）主導で発展
2007年総務省「地域における多文化共生推進プラン」を策定要請
一弱者として支援が必要な存在とみなされてきた

（公財）日本国際交流センターでは2005年から

「多文化パワープロジェクト」実施

『多文化パワー社会－多文化共生を超えて』（2007年、明石書店）

外国人の活躍

1. 世界に向けての情報発信 Fukuoka Now
 2. 日本に異文化、価値化、ライフスタイルを紹介 ラテン文化センター ティエンポ
 3. 地域イベントやNPOのリーダー NPOふくかねっと、ふくしまキムチ村プロジェクト
 4. 地域での起業 グローバル愛知
 5. 地場産業の働き手
 6. 日本文化の担い手
滋賀県日野まちなみ保存会
 7. 地域の防災活動に担い手
いちよう団地のトライエンジェルス
- ⇒成果 高齢社会の持続性、労働力補充にとどまらない
「多文化パワー」日本人とのウイン・ウイン(相乗作用)



ラテン文化センター ティエンポ

外国人は何を考えているのか？

1. 外国人は日本人に自分たちの存在を認めてもらいたがっている。日本社会に貢献したがる
2. 日本に母国を紹介し、母国との橋渡し役を担いたいと思っている
3. 客観的に日本を見ている

外国人の活躍を促す事業例

1. スタートアップビザ制度(外国人創業人材受入促進事業)

「福岡市スタートアップカフェ」など

2. 外国人の地域貢献を促す例

広島県安芸高田市「第二次多文化共生推進プラン」(2018年3月策定)

外国人市民の消防団への入団促進

地域の伝統文化(神楽、田楽)外国人市民に継承組織への加入を要請

3. 日本人住民の意識変化を促す

- ・多文化共生月間・・・愛知県、長野県、名古屋市、北九州市など
- ・静岡県HP「静岡県の活躍する外国人県民」

外国人活躍推進のためのプロセス

1. 受け入れ⇒生活支援⇒共生⇒活躍(多文化パワー)

2. 活躍(多文化パワー)を実現するために

短期

- ・外国人の声を取り入れる仕組みの構築
ex.新宿区多文化共生まちづくり会議
- ・日本人住民の意識変革 外国人の地域貢献の実態把握と公表、首長のリーダーシップ
- ・外国人活躍のための事例集の作成(起業家、企業の中で働く外国人、地域おこしで活躍する外国人等)
- ・パイロット事業の実施
例)外国人の起業促進(日本人との共同起業、地方都市で地方大学出身者の起業促進、地方での外国人起業促進を国内外にPR)

中長期

- 外国人材活躍支援のための専門人材の設置
すでに多文化共生推進士、多文化共生マネージャー制度あり
- ・世界から起業家を地方都市に呼び寄せる仕組みの開発
- ・外国人活躍のための総合ビジョンの構築と実施

⇒地方創生において外国人の活躍を重点事業の柱の一つとし「多文化パワー」発揮のための本格的な調査、政策立案を実現すべき